



SHALOM-NETWORK

発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL / FAX 024-567-5322

Web <http://www.nposhalom.net>
E-mail info@nposhalom.net

発行責任者：大竹静子

今年度の「ひまわり子ども大使」派遣

準備が進められています！
北海道、京都、岡山で

今年度も「ひまわり子ども大使」派遣に向けての準備が進められています。四月三十日から五月二日にかけて、現地の支援団体のイベントに参加し交流を深めながら、受入団体の責任者等との打合せを行ってきました。今年の「子ども大使」の派遣は、夏休みの初旬に行われる予定です。当初予定していた九州への派遣は熊本大地震の影響から中止することとなり、北海道、京都府、岡山県の三件で具体的な計画が進んでいます。

京都への派遣は、八月四日(木)～十日(水)までの六泊七日のプログラムとなります。京都市内には、福島からの避難者が多く生活しており、福島支援の団体も多く活動しています。「ひまわりプロジェクト」へ資金支援を最初に行ってください。た「ドネーションシップわかちあい」さんも京都を拠点にしています。三十日は、「ドネーションシップわかちあい」さん主催の「わかちあいまつり」が行われ、そのイベントには「ひまわり油」「みんなの手」も展示販売されています。それも到着した頃にはほとんど完売状態でした。

「京都は、幕末における会津藩との交流もあり、福島には大変好意的な地域なんです」という地元の人たちの話を聴



▲ 京都「わかちあいまつり」の様子

きながら、この歴史が福島からの避難者を温かく受け入れ、避難者と地域の人たちの交流を目的とする「みんなのカフェ」を実現させたのかなど思いを馳せました。先人の京都への貢献が、今、福島に対するお返しとして戻ってきているのでは…。歴史を重ねると、常に社会はお互い様の助け合いで成り立っていることを感じさせます。

現地を訪問し、その地域で生きている人たちの心に直接触れることで、福島と京都という距離が一挙に解消します。訪問することで、頭で理解しただけの知識の京都が、同じ場所で、同じ空気を吸う人間同士の交流が始めます。

これからの未来を担う子どもたちが、自分たちの生活する

皆さんのお知らせで「子ども大使」に推薦したい方がいらっしやましたら、事務局までご連絡をお願いします。若干名の募集で、定員になり次第締め切らせていただきます。参加予定者については、六月末から七月中旬に「ひまわり大使」や「ひまわりプロジェクト」、福島の現状に関する事前研修を数回行います。今年度の「ひまわり子ども大使」も全国の多くの支えによって準備が進められています。皆さんの支援に感謝の意を込めてお伝えしたいと思います。(T・O)

る地域を考え、他の地域との交流を通して得るものにはかけがえのない多くの宝があるでしょう。多くの人たちの思いと愛を受けることで子どもたちは大きく成長していきます。それが子どもたちが未来を描く原動力となっていくことを期待しています。

北海道は、震災以後継続されてきた福島の子どものための夏休みキャンプに参加する形で「子ども大使」を派遣します。南幌町での一週間のキャンプとなり、京都とほぼ同じ日程となる予定です。

岡山県笠岡市へは、前二回の「ひまわり大使」派遣で培われてきた地元元学生との交流を大切に育てていくため、学生代表三名を現地でのイベント「ひまわりフェスティバル」(八月七日(日))に向けて派遣します。十二月に行われる「ひまわり感謝祭」には笠岡から学生代表を招待したいとも考えています。

「ひまわり」と人のコミュニケーション、興味を持ち当事者として係る姿勢が伝わる時大輪の花を咲かせてくれる。関心を持ち、相互に関わり合うことで環境は変化する。置かれた環境を僅かでもよくしていこうとする取組みが状況を変えていく。環境変化に敏感な感性を大切にしたい。(T・O)

まだ五月というのに日差しが強い。寒暖の差は激しいが、夏日が続く。季節は毎年時間の流れの中で、同じ季節の営みを繰り返しながら変化していく。今年も「ひまわりプロジェクト」のひまわりの種が、全国各地に送られている。種は与えられた地に時かれ、その地で芽を出し、自然の恵みを受け、一つの生命として育まれていく。

しかし、多くの種たちには、花を咲かせずに消えていく現実が反面にある。まずは芽を出しその土に根を張ることができると、花を咲かせるまで成長できるのか。一粒の種の一生は、すべての生命の営みに重なる。人の一生もまた例外ではない。

一粒の種に置かれた環境を自ら選択する権利は与えられていない。同じ土地に時かれた種も、その年の気候に大きく左右される。時には日照りで芽が出せず、雨が続きと根ぐされを起こす。去年の収穫が豊作だと土地の肥料を吸い上げすぎ、今年の種は大きく育てない。ひまわりとその種を蒔く人間との関わり、ひまわりの観察を通して、今、必要としているものを知ることが出来る。

愛のつぼみ 長